

統計界で最高の榮譽とされる
平成29年度大内賞受賞者決定



(メダル表面)



(メダル裏面)

1 大内賞の概要

大内賞は、戦後における我が国の統計の再建に政府の統計委員会委員長として尽力した大内兵衛博士の業績を記念して、昭和 28(1953)年度に設けられたものである。我が国の統計の進歩に貢献した個人、団体等を顕彰するもので、統計界の最高榮譽とされており、昨年度までに 311 名・3 団体が受賞している。

2 平成 29 年度の大内賞受賞者

大内賞受賞者を選考する大内賞委員会（委員長：西村清彦総務省統計委員会委員長）は、今年度の大内賞を次の 4 氏に贈ることを決定した。

(受賞者名)

○ 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人（氏名50音順）

<small>さかきばら かずこ</small> 榊原 和子 氏	福島県：統計調査員
<small>ひね やすこ</small> 日根 裕子 氏	和歌山県：統計調査員
<small>びやじま かずこ</small> 美谷島 和子 氏	長野県：統計調査員
<small>よしほら せつこ</small> 吉原 節子 氏	福岡県：統計調査員

大内賞受賞者の表彰は、平成 29 年 11 月 13 日(月)、総務省及び（公財）統計情報研究開発センターが開催する「第 67 回全国統計大会」（会場は、東京都渋谷区「国立オリンピック記念青少年総合センター」）において行う予定であり、大内賞委員会委員長から受賞者に対し、賞状のほか副賞として大内兵衛博士の横顔をデザインしたメダル等が贈呈される。

3 受賞者の業績

- ・ 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

○ 榊原 和子 氏 （福島県：統計調査員）

工業統計調査、小売物価統計調査、商業統計調査など48年間にわたり196回の統計調査に従事し、精確かつ迅速な統計調査に尽力するとともに、この間、市の統計調査員協議会の結成に参画し、役員として会の組織強化と統計調査員の資質向上に尽力するなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

○ 日根 裕子 氏 （和歌山県：統計調査員）

小売物価統計調査、家計調査、消費動向調査など47年間にわたり106回の統計調査に従事し、中でも世帯の協力を得ることが困難とされる家計調査に38年間もの長きにわたり従事し、調査客体への丁寧な説明と記入方法の指導など真摯な対応を心掛け、他の調査員の模範となるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

○ 美谷島 和子 氏 （長野県：統計調査員）

工業統計調査、労働力調査、家計調査など39年間にわたり181回の統計調査に従事し、中でも世帯の協力を得ることが困難とされる家計調査に現在まで23年間従事しており、困難な調査への積極的な取り組みと調査方法の独自の創意工夫により、他の統計調査員の模範となるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

○ 吉原 節子 氏 （福岡県：統計調査員）

工業統計調査、家計調査、生産動態統計調査など43年間にわたり225回の統計調査に従事し、31年に及ぶ家計調査を含む多岐にわたるいずれの調査に対しても、調査内容について丁寧で正確な説明を根気よく行い、調査への理解と協力を得て正確な調査を遂行するなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

【参 考】

1 大内賞の受賞資格・受賞者数

- (1) 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人
- (2) 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人
- (3) 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人
- (4) 統計の実務又は普及を通じ、我が国の統計の進歩に顕著な貢献をした人又は団体等

・受賞資格別受賞者数：(1)41名, (2)257名, (3)16名, (4)1名・3団体

・所属分野別受賞者数：学識経験者 15名, 府省関係 91名, 地方公共団体関係 55名,
統計調査員 63名、民間団体 78名、団体 3、その他 13名（調査対象農家・漁家）

計 315名・3団体

2 大内賞委員会の構成

大内賞委員会は、総務省統計委員会委員長を委員長とし、統計委員会の部会長（6名）により構成されている。

◆大内賞委員会事務局◆
公益財団法人 統計情報研究開発センター
電 話：03-3234-7478